

夕刊

隨想 落花一片

八幡秋月

風なき夕にハラリと

一ヒラリ淋しく散りゆく

涙がましむる。

嘆若くして空しなり

悲しき生涯を想ふ時涙が

にじむ、傷しく想ふ。

運な女だつた。傍かりし郷

て生れて來た女だつた。不

かりでない、母ならむとし

て失せたよ、卿はあま

りにも悲しき運命を背負つ

る運な女だつた。傍かりし郷

て生れて來た女だつた。不

かりでない、母ならむとし

すぐる春に松ヶ岡邊に散き過去の幻影となつた。の視界を去つて行つた時は出走時の無い影像にすぎない。再び松ヶ岡の桜花散りゆく。今春永遠にこの世の視界から去つて仕舞つた。

春の嵐に散りゆくものはもろくも散つた花一輪。桜花ばかりでない、あたらく、涙の多すぎた自己の過きは人の命である。

人生、二十二才の春を見残して静かな春のたそがれに朝露のそれよりも、もろくも散つた花一輪。桜花ばかりでない、あたらく、涙の多すぎた自己の過きは人の命である。

と聞かぬかなかつたけれど比較的すぐる年の夏の頃から春の嵐の頃からTの消息を聞く。其の後は終にTの消息を聞かぬかなかつた。彼女の将來に幸あれかしと聞かぬかなかつた。其の後は終にTの消息を聞かぬかなかつた。彼女に起るを生と言ひ此方全智全能な神の存在を肯定はせぬど、半生を置いて彼女の内部やすでに滅して彼女の身体やすでに滅して其のままそつくり肯定した。噫。

とそれは結構だと想つて苦痛だと考へてゐた。生死は大海の波の如くTの消息を聞いた。然るに彼女の内部やすでに滅して其のままそつくり肯定した。噫。

お蘭陀 柏蝶

(28) 渡邊黙禪作

講談

音楽物語(モーツアルト)

童謡(野の雉子・八千葉童子社発行)

一二の童謡集

○島田忠夫著

△二〇〇A 家庭講座(第一回)

△二〇〇B 英語講座(第一回)

△二〇〇C 美語講座(第一回)

△二〇〇D 曲實演解説(第一回)

大蒲焼

四十五錢

大蒲破

四〇〇ニュース

△九、三〇A 時報

△九、三〇A ニュース

△九、三〇A 海軍各歌(東京日比谷公園新音樂堂)

△九、三〇A 陸軍各歌(東京日比谷公園新音樂堂)

△九、三〇A 海軍各歌(東京日比谷公園新音樂堂)

△九、三〇A 海軍各歌(東京日比谷公園新音樂堂)

△九、三〇A 海軍各歌(東京日比谷公園新音樂堂)

木村寅次郎著

本兼吉著

東京市立農業試験場本部研究室

△一白の人 力足らさず

△二白の人 力足らさず

△三白の人 力足らさず

△四白の人 力足らさず

△五白の人 力足らさず

△六白の人 力足らさず

△七白の人 力足らさず

△八白の人 力足らさず

江名町に劇場

江名町坂

東京日比谷公園新音樂堂

△九、三〇A 時報

△九、三〇A ニュース

△九、三〇A 海軍各歌(東京日比谷公園新音樂堂)

△九、三〇A 海軍各歌(東京日比谷公園新音樂堂)

△九、三〇A 海軍各歌(東京日比谷公園新音樂堂)

△九、三〇A 海軍各歌(東京日比谷公園新音樂堂)

△九、三〇A 海軍各歌(東京日比谷公園新音樂堂)

△九、三〇A 海軍各歌(東京日比谷公園新音樂堂)

羽分會等は何れ

縣議田某村の某村に參列した處

の短かき生涯を想ふ時涙が

にじむ、傷しく想ふ。

春風に散るものは桜花は

かりでない、母ならむとし

て失せたよ、卿はあま

りにも悲しき運命を背負つ

る運な女だつた。傍かりし郷

